

新平縁の 拓殖大 渡辺学長が初来水



後藤新平顕彰会員らと懇談する
渡辺利夫学長（中央）

市武家住宅資料館にも足を運び、来訪を待ちかねた顕彰会会員、菅原義子教育長らと懇談。学長は拓大建学の経緯や精神などを交えながら、総督府の民政長官として台湾に赴任した新平の功績を紹介。日本の文化・制度を押し付けるのではなく、「台湾の伝統的制度に日本の近代的やり方をブレンドし、未開の地を発展させた。その手法はいかにも新平らしい」とたたえた。

渡辺学長は「初めて訪れたが、何か懐かしい感じさえ覚える。人と人との距離が近い、この水沢の風土が新平の礎を築き、さまざまな偉業を成す原動力となったのではないか」と話していた。

同大は来年4月、大学院に地方政治行政研究科を開設する。地方活性化に貢献すべく、地方のリーダー的役割を担う人材の育成を目指す。新平の遺志を受け継いだ新設といい、先月には同大文京キャンパスで同研究科設置記念・後藤新平記念と銘打つサマースクールを開催した。

水沢3偉人の一人で先見の政治家・後藤新平（1857-1929）が第3代学長を務めた拓殖大学（東京都）の渡辺利夫学長が4日、初めて水沢区を訪れ、新平記念館や旧宅を見学。地元市民団体の新平顕彰会（梅森健司会長）会員らと懇談もし、親交を深めた。訪問は渡辺学長のたつての希望。福島県郡山市で同日午後に行われる講演会出席を前に、足を延ばした。学長は新平記念館を1時間ほど見学した後、同区吉小路の旧宅に。「実に簡素な造りだ」と感慨深げに室内を見入った。

懇談と顕彰会員ら や記念館や旧宅見学